

うど新品种「栃木芳香 1 号」及び「栃木芳香 2 号」の株養成技術

1. 試験のねらい

栃木県農業試験場では、高品質で生産力が高い「栃木芳香 1 号」「栃木芳香 2 号」を育成し、平成 24 年に種苗登録となった。そこで、この 2 品種に対する適切な栽培管理技術を確立するため、湿害対策と減肥化を目的とした高畝マルチ栽培について窒素の施用量と溶出タイプを検討する。また、慣行の平畝無マルチ栽培において、全量基肥法の開発を目標に、基肥の配合割合、施用量について検討する。

2. 試験方法

(1) 高畝マルチ栽培の検討

高畝マルチ栽培は、肥料をベット内に条施肥してから畝上げ、黒マルチを被覆する方法とし、施肥量の減肥や全量基肥を目的に、対照区の 25%、38%、50% に減らした 3 つの処理区(それぞれ 2.5N、3.8N、5.0N)、および溶出が異なる LP コートを混合した 2 つの処理区(両区とも 50% 減肥)の 5 処理区と、慣行の平畝無マルチ栽培の計 6 処理区で検討した。なお、品種は栃木芳香 1 号、栃木芳香 2 号、紫の 3 品種を用いた。

(2) 無マルチ栽培における肥培管理技術の検討

栃木芳香 1 号、2 号に適応した全量基肥型肥料の開発を目標に、化成肥料に LPS40、LPS80、または LPSS100 を組合せた 3 つの処理区と、慣行肥料のうち専用肥料(LP100、化成 LP100 それぞれ 50% 混合)を用いた 3 割減肥区、3 割増肥区、対照区の 3 つの処理区の計 6 処理区で検討した。なお、品種は栃木芳香 1 号、栃木芳香 2 号、紫の 3 品種を用いた。

3. 試験結果および考察

(1) 高畝マルチ栽培は、いずれの処理区も慣行の平畝無マルチ栽培に比較して根株重が優れ、特に栃木芳香 1 号、2 号はその効果が大きかった。また、着生芽も多く、局所施肥により施肥量を 75% 減らせることが示唆された。また、溶出タイプはシグモイド型よりもスーパーシグモイド型で芽径が大きい傾向であった(図-1、2)。

(2) 平畝無マルチ栽培は、スーパーシグモイド型(LPSS100)を利用した 2 つの処理区が、栃木芳香 2 号で 3 割増肥区と同等以上に根株重が大きかった。また、この 2 処理区は、芽数、大芽数が多く、着生芽の発育が優れる傾向であった(図-3、4)。

4. 成果の要約

栃木芳香 1 号、2 号の肥培管理は、速効性の化成肥料に加え株養成後期に溶出が多くなる LPSS100 日タイプを基肥に利用すると根株が充実した。さらに、高畝マルチ栽培によりマルチ内局所施肥すれば、大幅な減肥化が可能であった。

担当者 野菜研究室 羽石重忠 半田有宏* *現安足農業振興事務所

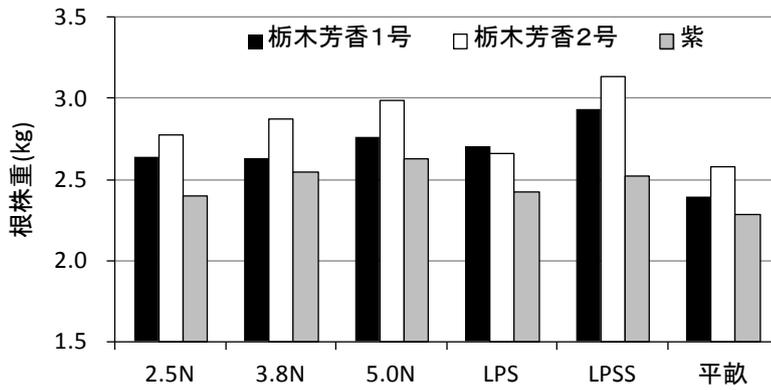


図-1 高畝マルチ栽培における窒素の施用量、溶出の違いが根株重に及ぼす影響

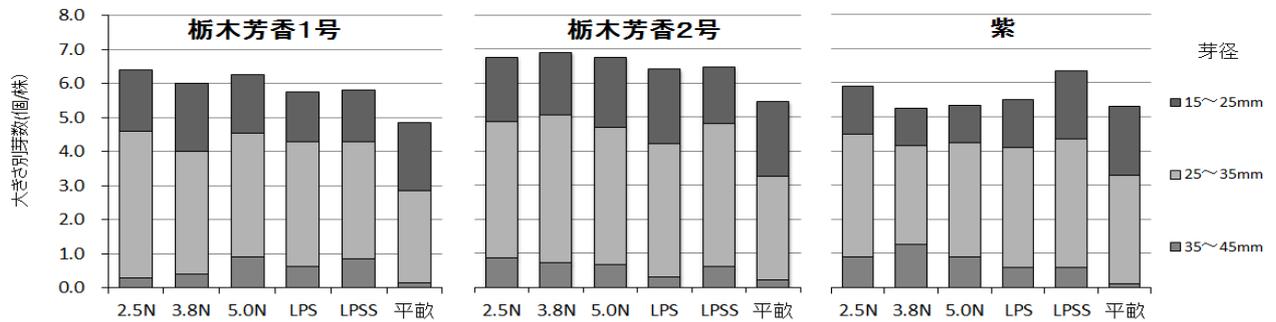


図-2 高畝マルチ栽培における窒素の施用量、溶出の違いが根株の着生芽数、芽径に及ぼす影響

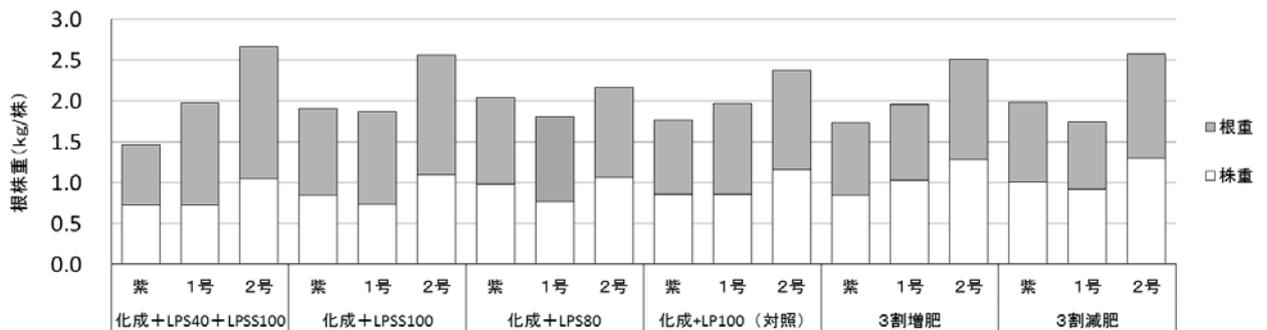


図-3 平畝無マルチ栽培における基肥施用法・量の違いが根株重に及ぼす影響

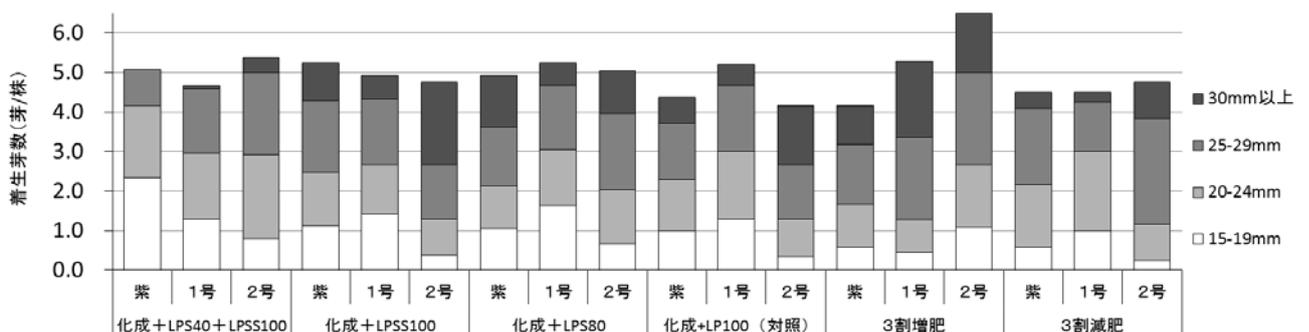


図-4 平畝無マルチ栽培における基肥施用法・量の違いが根株の着生芽数、芽径に及ぼす影響